



鳥見の記 散策を楽しもう

第2回 さくらの杜公園で小鳥を見つけよう

2018.3



寒さがやわらぎ小鳥たちが賑やかにさえずり始める今頃の季節は、3丁目のバーダー・サトーも散策に出かけると、ひがな一日小鳥を眺めて過ごす日が多くなりそうです。

さくらの杜公園とその周辺では、毎年秋口から初夏の間には、本連載コラムの[第1回「いつでも、どこでも見られる鳥」](#)で紹介した7種類を含めて、少なくとも20種類位の野鳥が見つかります。時には野鳥を探す目的で散策を楽しんでみてはいかがでしょうかでしょう。イタチやタヌキに偶然に遭遇するかも？・・・

さくらの杜公園へは、戸頭駅へ向かうアプローチ・ロードの入り口から入ります。蕾をつけ始めた八重桜に迎えられ、メタセコイヤの大木を横目で見ながらそぞろ橋の方へ。その名無し橋(?)を渡り公園内の木々や縁の垣根を見渡しながらか鳥見の体験をしましょう！

今回は、鳥見のポイントのひとつである「**鳴き声**」に注目してかわいい鳥たちをご紹介します。

● おさらい ●

りゅうちょう
留鳥:

一年中同じ場所で生活する、あるいはその地域で見られる鳥。

ひょうちょう
漂鳥:

日本国内で季節により移動する鳥。夏に山や北方で繁殖し、秋冬に平地や南方に移動し越冬する。

冬鳥:

秋に北方から来て越冬し繁殖のために北方に帰る鳥。

ウソ

公園入り口の冬芽の八重桜に！ 口笛のように「**フィー・フィー**」と鳴く

ウソは大きさ16cmで、冬鳥または漂鳥。繁殖期は山地の針葉樹林、非繁殖期は低地の林に生息し、群れでウメやサクラの冬芽や種子を食べています。ピンクの頬でふっくらした体つきは何とも愛らしい姿です。これらの写真は2月頃のものです。



ヤエザクラに止まるウソ。オス(左)は胸・腹が濃い紅色、メス(右)は胸・腹が淡い紅色



ウメの木の上のオス



サクラの木の上のメス

アオジ

**メタセコイヤ付近の藪で！
藪やアシ原で「ジッ・ジッ」と鳴く**

アオジ^①は大きさ16cmの留鳥または漂鳥。開けた森林や林縁に生息し、草の実や種子を食べます。胸と腹はきれいな黄緑色です。

鳥識^①:
アオジは「アオ」の名はつくが実際は青ではなく緑色。日本で青い鳥には「ルリ」と名づけられる。



メスは、頭と頬が淡黄緑色で胸に縦縞



オスは、頭が灰色緑、目とくちばしの周りが黒い



メス(手前)とオス(奥)



メス

エナガ

さくらの杜公園の橋付近のアシ原から現れる！ 「ジュリリ」とか「チュリリ」と鳴く

大きさ14cm、留鳥または漂鳥であるエナガは、平地から山地への林に生息しています。長い尾のお喋り上手な小振りな鳥で、枝や葉のアブラムシ、クモを食べます。エナガという名は、体に対して尾羽が柄のように長いのでつけられ、漢字では「柄長」と書きます。



公園の木々の上で食事をしたり、遊んだりしているエナガ

鳥識② こんぐん 混群:

違った種類の鳥がひとつの群れをつくり行動することで、非繁殖期のカラ類にみられる行動。

エナガは、こんぐん②の先導役を担い、シジュウカラ・メジロ・コゲラ、時にはヤマガラと一緒に飛んできます。さくらの杜公園内のサザンカやウメ、サクラの枝で食事したり遊んだりして、メタセコイヤの木の方へ移動しアシ原へと飛んで行きます。

シジュウカラ

エナガの群れと一緒に！
「ツピー・ツピー」
とさえずり、「ジュク・ジュク」
と地鳴き^③

鳥識^③さえずりと地鳴きの違い：
さえずりは繁殖期にオスがメスを誘う時や縄張りを主張する時の鳴き方。一方、地鳴きは、仲間を呼んだり警戒したとき出す鳴き方。

シジュウカラは、大きさ15cmの留鳥または漂鳥です。市街地・公園等の平地から山地の林に生息しています。胸に黒いネクタイ模様がトレードマークのお馴染みの鳥ですね。



メスのネクタイは細い



木の洞は巣かな？



オスのネクタイは太い



春・夏は枝の上で、秋・冬は地上で昆虫や種子を食べる

メジロ

花の蜜が好き！
「チーチュル、チーチュル」と鳴く

目の周りが白いので、その名もメジロ。

大きさ12cmの留鳥または漂鳥で、低地から山地の緑地に生息します。体はいわゆるウグイス色をしています。



庭のベランダで食事中



仲良く目白押し④

鳥識④ 目白押し：
子どもが並んで押し合う遊びのことをいい、メジロが群れで体をくっつけて寄り添い木の枝に止まることに由来する。



サザンカの花とメジロ

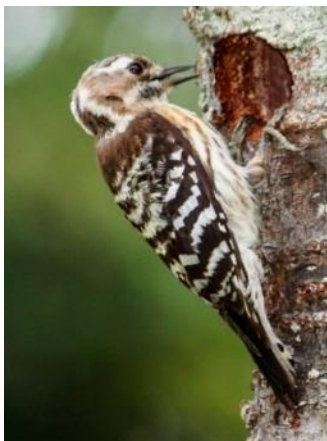


庭のウメの花がお似合い

コゲラ

コツコツと木の幹を打つ音がしたら？ 「ギー・ギー」と飛びながら鳴く

コゲラは大きさ5cmの留鳥で、公園や低地の雑木林に生息する小型のキツツキです。背中の黒と白のまだら模様が特徴で、幹の下から上に移動し(木走^⑤)、樹皮を突いて虫を食べます。



鳥識⑤ 木走：
木の幹に縦に止り、尾羽を幹につけ這うようにらせん状に上に登っていくこと。



メス



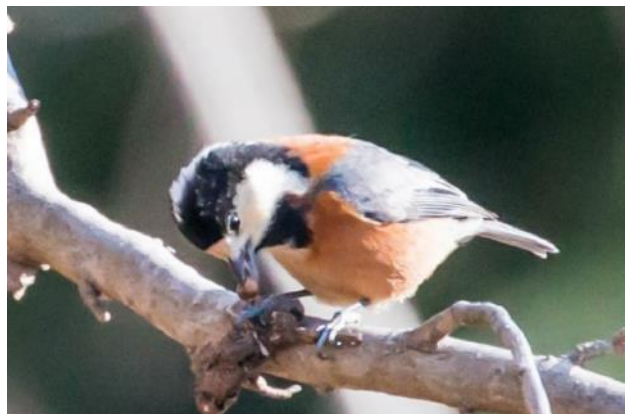
オス（目の後方の白斑に
小さい赤い点が見え隠れする）

ヤマガラ

**混群と一緒に飛んできたらラッキー！
「ツツピーー・ツツピーー」と鳴く**

ヤマガラは大きさ14cmの留鳥または漂鳥です。山地から平地の樹林帯に生息して昆虫や木の実を食べますが、餌の少なくなる季節に備えて樹皮のすき間にそれらを蓄えておく習性があります。おなかの赤い色(赤褐色)がかわいいですね。

ヤマガラの名前は、山に生息する「カラ(小鳥を表す)」に由来しています。昔は縁日で「おみくじ引き」の芸をする鳥として知られていましたが、今では鳥獣保護の観点からまったく見なくなりました。



カケス

公園の橋の手前で、騒がしく鳴くのは誰だ！
「**ジェー・ジェー**」と濁った声で鳴く

カケスは大きさ33cmの留鳥で、平地から山地の森林に生息しています。ドングリが好物で、秋にはのどに含んで運び、冬に向け落ち葉の下などに貯蔵する習性があります。翼の青・白・黒の縞模様がとても美しい鳥です。



カワセミ

公園の橋でお探しの鳥を見つけたか？
「**チィー**」と澄んだ鳴き声をあげて逃げていく

カワセミは大きさ17cmの留鳥で、海岸・川・湖沼や公園の池等の水辺に生息します。コバルト色の背羽で「清流の宝石」と呼ばれるに相応しい美しい鳥です。空中で

ホバリング^⑥して高速で水中に飛び込み、一瞬で餌を取る様子は見事です。



鳥識^⑥ ホバリング：
翼と尾を動かし空中の一点に停止する飛び方で、低空飛行ともいう。タカ類も同じ飛び方をする。



メスはくちばしの下が赤い(さくらの杜公園裏の水路)



オスのくちばしは上下が黒い (第一調整池)



オス (橋のたもと)



オス (さくらの杜公園裏の水路)

鳥識⑤:
新幹線 500 系の「ノーズ」はカワセミの「くちばし」がモチーフといわれている。



消化できなかったものをペレットとして吐き出すメス(さくらの杜公園裏の水路)



メス (さくらの杜裏の水路)



オス (さくらの杜裏の水路)

※ 公園の橋の付近では、キセキレイやハクセキレイ・カルガモも見られますが、別の機会に紹介します。

そこにいるのは だぁ～れ？

橋を渡った公園の左右の林縁付近で、枯葉が「ガソ・ゴソ・ガソ」と音がしたら、それはツグミ類が餌にする虫を探す音です！

アカハラ

「キョロン・キョロン」と鳴く

アカハラは大きさ27cmの冬鳥。平地から山地の森林に生息し、林床を飛び跳ねながら落葉や枯葉をくちばしではねのけ昆虫やミミズを探します。



オスは顔とのが黒い



メスはのが白っぽい橙色

シロハラ

「キョッ・キョッ」と飛び立つ時に鳴く

シロハラは大きさ25cmの冬鳥です。開けた場所にはあまり見られず、暗い林縁で餌を探します。



オスの腹は名前のおり白っぽい



珍しく明るいところに出てきた！

ツグミ

「キョキョッ、キョキョッ」と鳴く

大きさ24cmの冬鳥のツグミは、平地から山地の草原・農耕地・森林に生息しています。冬にはさえずりをしていたのに、夏には口をつぐんでしまうことから「ツグミ」と名がつけました。畑や芝生など開けた場所を好み、地中の昆虫やミミズを食べ、足を揃えて跳びはねるように歩きます。胸を反らす得意のポーズで立ち止まる、冬によく見かける鳥の代表といわれています。



トラツグミ

夕暮れに不気味に「ヒィー」と鳴く

トラツグミは大きさ30cmの大型のツグミ(留鳥)で、全身を覆う黄色と黒の三日月の斑がトラの模様 に似ています。地上で頭を振り、くちばしで落葉をはねのけて昆虫を採食。危険を察知すると木の上でじっとうずくまります。



ジョウビタキ

枝先で尾しきりにを振って目立ちたがやさん・・・
「ヒッ・ヒッ」と地鳴きする

ジョウビタキは大きさ15cmで冬鳥です。市街地・公園や林縁に生息しています。



オスは、頭と後頭部が黒く腹がオレンジ



メスは、全身が灰褐色で腹はオレンジ



シメ

原っぱで静かに遊んでいるのは、だれだぁ～！

シメは大きさ19cmの冬鳥。市街地や平地から山地の林に生息していますが、あまり鳴きません。ずんぐりした体形で太いくちばし、短い尾の、ちょっと愛嬌ある風貌の鳥です。カエデやシダの種子の皮を器用にくるくる回してむいて食べます。



小鳥の和名が意外に単純な由来であることが分りましたか？

始終鳴くから「シジュウカラ」、目の周りが白いから「メジロ」、尾が柄のように長いから「エナガ」、山にすむから「ヤマガラ」、腹が赤い、白いで「アカハラ」・「シロハラ」等と鳥の形態や生態で名づけられてるようです。

第1回表紙の鳥の名前

サシバ	ショウビタキ
コジュケイ	カルガモ
コガモ	カワセミ
キジ	ツミ

第2回(今号)表紙の鳥の名前

モズ	ノスリ
カワウ	マヒワ
オナガ	ヒバリ
マガモ	ダイサギ

※第3回の「鳥見の記」は、「さくらの杜公園の周辺で見られる冬鳥と春から夏に見られる鳥を見つけよう！」と題してお届けします。

3丁目のバーダー・サトー 佐藤 健三